

令和5年度第2回経営アドバイザー会議議事録

開催日時	令和6年3月8日(金) 午前10時から正午まで
開催場所	千葉県立房総のむら 風土記の丘資料館 集会室
出席者内訳	高木博彦 委員 福本朋子 委員 豊田佳伸 委員 山田篤 委員 小林すみ子 委員  房総のむら：岩崎館長・大森副館長・安藤管理課長・鎌形事業課長 千葉県立教育振興財団：高梨事業企画課長
議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度下半期事業について</li> <li>・令和6年度事業計画について</li> <li>・運営についての意見交換</li> <li>・その他</li> </ul>
質問、意見、要望等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 房総のむらと共催で実施して14回目となるユニセフ・ラブウォークには多くの参加者があり、幅広い年代で交流が図れて喜ばれた。</li> <li>② 企画展「地域に生きる醤油づくり」については、村々に根付いた地元の醤油屋についても紹介してはどうか。</li> <li>③ 令和7年度の調査研究に当たっては、以前に資料調査委員会のデータがあるので、内容を確認してから外部へ調査にできるほうが効率的だと思う。</li> <li>④ 学習支援の貸し出しキットの内容はどういうものを考えているのか。</li> <li>⑤ 千葉県誕生150周年記念事業については、「写真で見るちばのあゆみ」展以外に、今年度、来年度に事業計画はあるか。</li> <li>⑥ 入場者数(令和5年度2月現在143,425人)がコロナ禍前に戻っていない中で、体験者数(102,080人、全入館者に占める割合71.2%)が戻ってきているのは素晴らしい。</li> <li>⑦ 資料館の展示解説文は小学生には難しいと前回の会議で指摘があったが、早速子ども用のパネルが作成されており良かった。</li> <li>⑧ 教育普及事業の貸し出し用キットの利用実績はどうか。学校現場の教師の意見を取り入れていくと良いのではないか。</li> <li>⑨ 外国人の方が興味を持つようなエリアマップなどがあると良い。</li> <li>⑩ 全国の博物館や古墳などを巡るスタンプラリーを企画すると良い。</li> </ol>
質問、意見、要望等	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑪ 登り窯はどのような状態か。(「破損して使用できない」と、房総のむらの回答。) 登り窯は、古い時期に陶器を作るため最初に用いられた窯であり、復活させれば全国的にみても登り窯を使つての体験ができる博物館は数少ない。時代的にも古墳時代から現代まで合致する演目であり、歴史的に意義が深いと考える。</li> </ol>

<p>むらにおける 回答 ※数値は、 「質問、意見、 要望等」に対応</p>	<p>④ 学習支援貸し出しキットは、「授業に役立つ県立博物館プロジェクト」として県立美術館・博物館が保有する各種の資料や情報、ノウハウを学校での授業に積極的に活用してもらおうとする取り組みです。その内容は「灯りの歴史体験キット」「縄文土器施文具セット」があります。</p> <p>⑤ 千葉県誕生150周年記念事業として、昨年9月にトピックス展「千葉の行商」を行いました。また、本年6月には旧学習院初等科正堂を活用した栄町の記念事業にも協力する予定です。</p> <p>⑦ 資料館の子ども用展示パネルは、現場の先生に教科書や資料との整合性を確認していただき作成することができました。</p> <p>⑧ 学習支援の貸し出しキットは、174校・人数は3,447名の利用実績がありました。</p> <p>⑩ 登り窯は、壊れており使用できる状態ではありません。復活させるためには技術面や人材など全体的に判断が必要と思われます。</p>
--	--